

鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事における崩壊・倒壊災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	13~14	分譲マンション新築工事現場地下にて、16t移動式クレーンを使用して材料を間配り作業中、作業者が資材からワイヤーを除けようとして手を払った際、クレーンオペレーターが巻き上げの合図と誤認してしまい、ワイヤーを巻き上げた。結果、吊具が山留鋼材に引っ掛かり、2段に積んだ山留鋼材がバランスを崩し、被災者の右足脛に落下し負傷した。	51	1~9
1	10~11	建替計画接道路にて外構工事業者が道路突貫工事における可変側道床付のための規則床付（H1000）を行い、端から山留措置をしていたところ、近く他業社のコンクリート打設時の微動影響があり、既存の石垣（H1100）が滑り落ちて転倒し、被災者の腰に当たった。	45	1~9
2	8~9	1階浴室の型枠組みのための床墨出しを行い、作業終了後立ち上がろうとした際、突然立て掛けてあったボードが倒れ、下敷きとなった。その後周辺の作業員に救出され病院にて受診する。	58	30~49
2	10~11	現場内の山留工事資材ヤードでH鋼材料（H550×150、L=6m、7本）を移動する作業をしている時に吊り荷を下ろす際、適正なりん木を使用していなかった為、荷を降ろした時に手前のH鋼が倒れ右足甲が下敷きになり被災した。	37	—
2	9~10	現場の支柱撤去作業を行っていた際、倒れてきた支柱で胸部を強打した。	45	—
4	13~14	地山掘削（掘削深さ・地盤面より1.4M）において、仮設の山留設置作業をしたところ、法面が崩れ、退避中に転石し、仮設資材にて右後頭部・右頬・右足首部・左胸を打撲し、右頬に切傷を負った。	52	30~49
	10~	被災者はALC（H=2.5m、W=60cm、D=10cm、約80kg）3枚の建込作業を一人		1~

4	11	で行っていた。2枚の建込、本固定が終了し最後の1枚を立てしゃがんで微調整を行っていた際、ALCが傾き、支えきれず被災者の上に倒れ下敷きとなった。	67	9
4	11～ 12	当社資材置き場において資材整理を行っていた時、移動中に鉄筋を束ねてある上に飛び乗ったところ、鉄筋が崩れ、バランスを崩し転倒してしまった。その際左手から先についた為、左示指を骨折負傷した。	52	1～ 9
4	9～ 10	駅前プロジェクト現場内で重さ1.5tの給水ポンプ搬入作業を重量鳶との合番作業中、1.5tの給水ポンプを2.5tフォークリフトにて重量鳶所有の台車へ乗せ、作業終了後、重量鳶4名では台車を押す事が出来なかったので手伝いを頼まれた。台車のタイヤがロックされていると思い、タイヤのロックを外そうとした時に台車上の給水ポンプのバランスが崩れて給水ポンプが転倒し、ポンプの下敷きになり死傷した。	47	30 ～ 49
4	9～ 10	駅前プロジェクト現場内で重さ1.5tの給水ポンプ搬入作業を重量鳶との合番作業中、1.5tの給水ポンプを2.5tフォークリフトにて重量鳶所有の台車へ乗せ、作業終了後、重量鳶4名では台車を押す事が出来なかったので手伝いを頼まれた。台車のタイヤがロックされていると思い、タイヤのロックを外そうとした時に台車上の給水ポンプのバランスが崩れて給水ポンプが転倒し、ポンプの下敷きになり死傷した。	46	30 ～ 49
4	14～ 15	作業所のエレベーターシャフト内、各階に設けた足場板全面敷ステージの9階部分で、被災者が脱型した型枠材を足元に積み壁型枠解体作業を行い、材料を勢いよく積み込んだところ、足場板を支えていた単管を固定する先端クランプのボルトがアンカーから緩み、荷重の掛かったところから順次外れて行き、1階下のステージまで滑り台のような形になり、荷と共に滑り落ち、型枠材に左足首を挟まれた。	65	1～ 9
6	7～8	25階エレベーターホール付室にて、重量105kgの給気ガラリ本体を取り外す作業を単独で行った際、しゃがんだ状態で本体下部をこじ出したところ、本体上部から倒れて来て、支えきれず避けようとしたが足元が残り、本体と床に右足首が挟まれて被災した。	28	1～ 9
		会社の敷地内でダンプカーの荷台に上がる際、左足をステップ（地面より約60cmの高さ）に置き、右足を荷台（地面より約1.2mの高さ）の中に入れて上がろうと		

7	11~12	し、荷台の上に立て掛けてあった鉄板10枚（縦0.9m×横1.8m×厚さ5mm・1枚あたりの重さ約70kg）の上部に手を掛けたところ、鉄板10枚が倒れ、鉄板と荷台のあいり（側壁）に右足の下腿を挟まれ、骨折した。	66 9	1~ 9
7	11~12	6階に鋼製建具扉8枚を搬入し、EVホールRC手摺に立て掛け仮置きをしていた。他の作業に支障が出るので、移動しようとしたが、1枚を動かそうとした時に、扉を縦置きしていたため、8枚同時に倒れ下敷きになった。（鋼製建具重量約32kg×8枚=256kg）	20	1~ 9
7	9~ 10	鉄骨造4階建て新築工事の現場で、1階の段ボール作業室にて、床嵩上げコンクリート打設中に、立て掛けていた建具枠が倒れてきて、被災者の腰とふくらはぎに当たった。	46	100 ~ 299
9	10~ 11	被災者が3階廊下のサッシの養生材を剥がそうとし、仮置きで立てかけてあった硝子に手をかけめくった後に、1100mm×2400mmの硝子（1枚約60kg）が9枚（合計約540kg）倒れ右足が挟まれ負傷した。	50	1~ 9
10	13~ 14	敷地内にあるコンクリートブロック造りの小屋を解体作業中、最後に残ったブロック壁（長2.5m×高さ2.0m）を解体するため、ブロック壁の最下部を電動ピックにて作業中、ブロック壁全体が作業側側に倒壊、その際に倒壊してきたブロックにより左膝部骨折及び右耳を裂傷した。	27	1~ 9
10	11~ 12	工場新築工事現場で酸素ボンベの移動を行っている時、地面が碎石だった為、転倒防止を行う為に酸素ボンベをまとめている最中に、ボンベが転倒し、ボンベとボンベの間に挟まれ怪我をした。	30	1~ 9
10	16~ 17	10階朝礼会場の耐火被震吹付作業準備の為に朝礼台の移動を両名で実施していた。600枠1段4スパンと600枠1段3スパンに、それぞれ取り付けしてあり、建枠の足元には、移動用のキャスターをかけていた。転倒防止の控えを外し、朝礼台を前に引き出そうとした際に、バランスが崩れ、朝礼台が前に倒れ、被災者は、コンクリート床との間に下半身が挟まれ、被災した。	53	10 ~ 29
10	14~ 15	屋上にて鉄骨を裁いている際に、手元が滑って近くにあったH鋼に当たり、それがずれて後部より右足へ乗っかって来て負傷した。	60	1~ 9

10	10~ 11	新築工事現場において山留工事に伴う機材搬入の際、トラック荷台の後方部に置いていた道具箱を吊り上げて移動したときに、前方部に置いていたプラントに立て掛けていた敷鉄板（t9×3×6）2枚が玉掛け作業をしていた被災者の方へ倒れた。被災者は、敷鉄板と荷台の間に挟まれ右足側頭部を骨折した。	21	1~ 9
11	14~ 15	本社事務所敷地にて、書庫増築に伴う基礎杭打ち込み作業中（丸太木杭）、ヘルメットの顎紐の装着を怠ったことと、周囲の安全確認不足で、木杭打ち込みの際、雪や地盤の影響で杭が滑り倒れ、被災者の頭部に接触した。	63	1~ 9
11	9~ 10	会社の中の階段で、1階に下りる際に足を踏み外して落ちた。	38	1~ 9
11	13~ 14	建物入口付近にて、浄化槽据付の掘削作業時に、床付の仕上げ時、隣接する山留め（H鋼+コンクリート製平板）及び周囲に土留めの処理を先行工法から、掘削終了時の建込みを変更していた為、隣接する山留めが崩落し、コンクリート製平板が当たり、左第7肋骨を骨折した。	67	1~ 9
11	18~ 19	当社資材センターにて被災した、被災者は、現場から持ち帰った足場用鉄製の支柱（直径5cmの筒状パイプ、長さ4m、重さ約13kg）54本の束を資材置場に整理する作業中、支柱を束ねていた番線をほどいたところ、重なった支柱全体を支えるのを忘れ、積み重なった支柱がバランスを崩して被災者の左足に落ち、足首を負傷した。（作業服、安全足袋（つま先保護）着用）	26	10 ~ 29
12	11~12	被災者は、浄化槽のマンホール周囲モルタル塗り作業をするため、作業場所で打ち合わせをし、作業を開始した。作業完了後、作業場所から12m程度離れた2段足場の近くで携帯にて電話をしている時、突風にて西側コーナーから足場が倒壊している状況が視界に入り、逃げようとしたが間に合わず、倒壊する足場に当たって転倒し、負傷した。	60	~ 29
12	14~15	ガソリンスタンド建設中の建築現場で、鋼管杭打ち作業中、杭打ち後に高止まりし、地上に出ていた杭を切断後、吊り上げて横倒しするためにワイヤーを掛ける作業をしているときに、切断して自立していた杭が、完全に縁が切れていたため、鋼管杭が傾き、玉掛け作業をしていた被災者の方に倒れてきて、被災者が杭の下敷きになった。	48	1~ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html